

## 昨年度に取り組んだ活動一覧

- |         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 6月8日    | 第1回 ひらいるミナル理事会                   |
| 6月25日   | 第2回 ひらいるミナル理事会<br>(招集手続の省略により開催) |
| 6月25日   | 第1回 ひらいるミナル評議員会                  |
| 7月1日    | 第2回 ひらいるミナル評議員会<br>(電磁的決議方法にて承認) |
| 7月8日    | 第3回 ひらいるミナル理事会<br>(電磁的決議方法にて承認)  |
| 7月20日   | 評議員選任・解任委員会                      |
| 10月27日  | 第4回 ひらいるミナル理事会                   |
| 10月30日  | きらきらCityプロジェクト<br>(平井駅前美化活動)     |
| 11月4日   | 広域避難訓練バスツアー                      |
| 11月23日  | B&G東京運河ごみゼロ カヌーツーリング             |
| 12月9日   | 第5回 ひらいるミナル理事会                   |
| (2022年) |                                  |
| 2月22日   | 第6回 ひらいるミナル理事会                   |
| 3月16日   | 第7回 ひらいるミナル理事会                   |



## 時代にマッチングした「ひらいるミナル」との河川清掃活動

公益財団法人 B&G 財団  
事業部長 東條剛之

私は B&G 財団で長年にわたり海辺などの自然体験を通じた子どもの育成活動に携わってきました。自然体験は、自己肯定感をはじめとする豊かな人間性を育み、リフレッシュ効果も認められるほか、セルフコントロールなどの「抑制機能」を高めることが分かっており、発達障がいのある子どもたちの療育的効果を検証する取組も行われています。

一方、海の環境は悪化の一途をたどっています。特に、魚介類を食べることで人体に取り込まれてしまうマイクロプラスチックは深刻な状況です。プラスチックごみの多くは川を流れて海へたどり着くため、地元の旧中川などのごみをカヌーに乗って回収する事業を財団で企画するとともに、個人としても行動しなければと考え「水辺環境創造グループ(通称:みずかん)」に入会しました。みずかんは、江戸川区の水辺の景観を豊かにすることを通じて社会貢献することを目的とした景観活動団体。区内の新川を主な活動フィールドとし、川の清掃とカヤック体験を実施していますが、その活動を通じて「ひらいるミナル」の皆さんと知り合うことができました。

私は業務として特別支援学校などへ水辺体験の機会を提供していますが、障がいのある方々と同じ立場で活動した経験はありませんでした。これからの社

会はインクルージョンの視点が欠かせません。障がい者も健常者も分け隔てなく“自分のできることを行う”という理想の姿がみずかんにはありました。

このような中、コロナ禍で延期した当財団の「東京運河ごみゼロカヌーツーリング」が、ようやく関係機関の了承を得ることができ、実施に向けて進みだしました。みずかんでの経験を踏まえ、前述した水辺の自然体験の各種効果と、これからの社会形成には、障がいにかかわらず、河川清掃などの社会活動を通じて多くの方々が意識を共有していくことが大切であると考え、思い切って「ひらいるミナル」のみなさんにお声をかけてみました。結果的にコロナ禍にもかかわらず、障がいのある方を含め 132 名の参加者を得て旧中川などの河川清掃ができましたが、今振り返るとそこには 3 つの英断がありました。

一つは、感染対策を一緒になって考え、事業を許可していただいた江戸川区。もう一つは、趣旨に賛同し、参加することを決めてくれた「ひらいるミナル」職員の方々。そして、季節は 11 月下旬、カヌー乗船は 2 時間など、好条件ではないなか、果敢にもカヌーで川のごみ拾いにチャレンジすることを決断した 6 名の利用者の皆さん。もちろん当日サポートいただいたみずかんの協力も必要不可欠でした。(計 18 名の参加)

貧困問題や持続可能性など解決すべき社会課題は多くあります。今回のイベントは、主に環境問題をキーワードに企画したのですが、「ひ

らいるミナル」に参加いただくことで、連携協力やインクルージョンなど、更なるキーワードも内包でき、想定以上の成果を示せました。SDGs に代表される近未来への指針は、組織や団体が連携協力しなければ成し遂げることができないものです。その意味において、利用者とともに地域の社会活動に参画する「ひらいるミナル」は、時代のニーズとともにその必要性がますます高まっていくものと期待しています。

～東條 剛之さんご紹介～ 東條さんは江戸川区出身。自身の B&G 財団の活動を通じて、地元でも何かできないかという動機から、私たちひらいるミナルも活動に参加している景観まちづくり団体「水辺環境創造グループ(みずかん)」や近隣のゴミ拾いのボランティア活動など多岐に携わり、地域の方向士の親睦を深めておられます。普段の活動では河川清掃のことはもちろん、カヤック体験指導の中心的役割。東條さんから教えていただくことが楽しみで、毎月みずかんに通っている利用者さんもいらっやいます。「海よりも実は山が好きなんです」とソロキャンプの画像を SNS 上げていたりお茶目な一面もあるアクティブで頼りになる方です。

障がいのある子どもにも自然体験を！  
船と海を学ぶ体験学習会(～6/30)  
応援よろしく願います！  
<https://readyfor.jp/projects/summerchallenge2022>

